



Zoppi
JUWELIER

CHUR, ST. MARTINSPLATZ
TELEFON 081 252 37 65
WWW.ZOPPISCHMUCK.CH

In your vicinity.

Postplatz 7002 Chur www.gkb.ch

Graubündner
Kantonalbank

クールはスイス最古の町の一つである。

古くから人々はどこが美しい場所であるかをよく知っていた。それがクールである。マースオイル地方のヴェルシュ村に、初期石器時代（BC12000～9000年）からローマ時代まで外部の侵略を受けずに常に人々が住んでいた事が考古学上証明されている。この事を以てしてもクールがスイス最古の町と言える由縁である。しかし現在のクールはモダンで美しい人口35000人の町として息づき、様々な魅力に満ち溢れている。例えば、旧市街から直接ケーブルカーに乗り、プランブリュッシュ山に簡単にアクセス出来、夏、冬両方のスポーツを堪能する事が出来る。絵の様に美しい旧市街、またモダンで洒落た新市街を併せ持ち、各種の劇場や美術館などレジャーの楽しみは数限りない。この様にクールはクールならではの独自の魅力に溢れ、人々を魅了せずにはいられない町である。グラウビュンデンの雄大な自然にも恵まれ、同時にまた温暖な地中海気候の地にも近いという至便なロケーション。クールは自然を愛する者、文化芸術を愛する者、すべての者の楽しさ、幸せを存分に謳歌できる町である。



grau**b**ünden

ホテル（クール観光局加盟会員）

A	ABC Terminus	B	Chur
C	Freieck	D	Ibis-Pyramid
E	Comfort Hotel Post	F	Sommerau
G	Romantik Hotel Stern		
H	Drei Könige	I	Krone (Masans)
J	Sportcenter Fünf Dörfer (Zizers/Untervaz)		
K	Gartenhotel Sternen (Domat/Ems)		
L	Marsoel	M	Belvédère (Malix)
N	Sporthotel Brambrüesch (Malix)		
O	Franziskaner	P	Rosenhügel
Q	Schweizerhaus	R	Campingplatz Au
S	Zunftaus Rebluten		

レストラン（クール観光局加盟会員）

>= 地図外; (...) = 休日

庶民的な料理:	H2> Krone Masans (月)
H6 Bahnhofbuffet	C3 Marsoel (月)
B8> Brauerei (土/日)	G4 McDonald's
H2> Brasserie Feldschlössli (火)	B8> McDonald's
E4 Calanda	A2> Meiersboden 土/日
B8> Camp Au	F7 M Gäuggeli (日)
D5 Capellerhof (日/月)	B8> M Calandapark (日)
F3 Controversa	F4 Rätushof
G2 Coop Center (日)	C6 Schmiedstube (日)
G4 Coop Restaurant (日)	B8> Schweizerhaus (日)
C4 Drei Bünden (土/日)	H2> Sportcenter
C5 Gansplatz (月)	5 Dörfer
B8> Hallenbad	A7> Sporthotel Brambrüesch (月)
B6 Hotel Chur (日)	D3 Süsswinkel (日/月)
B8 Ibis-Pyramid	F8> Va Bene
G1 Klein-Waldegg	C5 Zunftaus Rebluten (日/月)
D5 Zum Kornplatz (日/月)	

ピュンドナー郷土料理:

E3 Bündnerstube Stern	B3 Hofkellerei (月)
E3 Drei Könige	B6 Zollhaus
グルメレストラン:	B8> Sommerau
A5 Basilic (日/月)	B8> Salt'n'Pepper
A6> Belvédère (月/火)	B8> Schlosshotel Adler,
D3 Obelisco	Reichenau

イタリアン:

D5 Chesa (日)	H8> Neustadt (土)
H2> Duc de Rohan (日)	H3 Otello
G5 Gambrinus (土/日)	B8> Oberalp, Bonaduz
B8 Grillhütte	B8> Rheinfels
D5 Mamma Mia	D4 Ticino (日)

各国料理:

C6 ギリシャ料理:	C3 中華料理:
Aphrodite (日)	Mandarin
C5 スペイン料理:	C5 タイ料理:
Bodega (火)	Teria

カフェ:

F4 Cafeteria City Shop	H8> Heini
C5 Cafe Arcas (日)	F4 Merz (日)
E4 Caluori (日)	H2> Merz (Wiesental)
G3 Du Théâtre (日)	H5 Café Maron (日)
	G5 Passage (日)
	E4 Postplatz (日)
BARS/DANCINGS	C5 Safari Beat Club (月、火)
E4 BarBar	C5 Tom's Beer Box
B7 Dampfschiff	D3 Bar Fédéral Freieck
B8> Giger Bar (日)	B8> Bar Track No. 7
B6 Felsenbar	D3 Bar La Strega
B8> P1 Dancing Disco (日、月、火)	E5 Werkstatt
C7 Rütli	B7 Schall und Rauch (月、火)

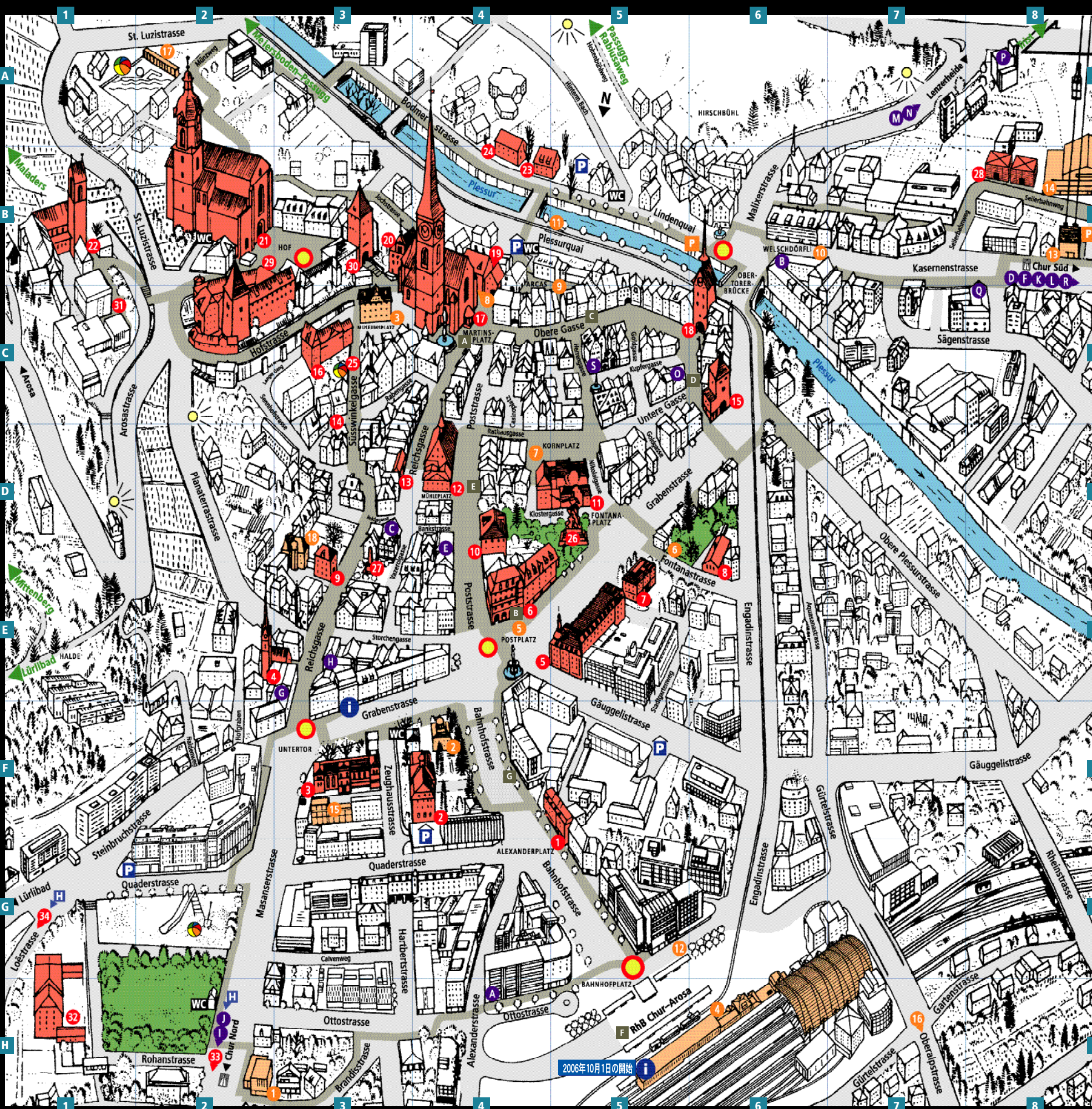
記号説明

Chur Tourismus, Grabenstrasse 5, CH-7002 Chur
電話 +41 (0)81 252 18 18 営業時間:
7/7 +41 (0)81 252 90 76 月曜 13:30-18 時、火曜-金曜
info@churtourismus.ch 8:30-12, 13:30-18 時;
www.churtourismus.ch 土曜 9-12 時

インフォメーションテーブル 展望所
屋内駐車場 観光バス駐車場
病院 ハイキングコース
WC 公共トイレ 市内ツアー
児童公園

- 1 Rätushof
- 2 Verwaltung Rhätische Bahn 裏を参照
- 3 Stadttheater/Grossratsgebäude 裏を参照
- 4 Kirche St. Regula 裏を参照
- 5 Postgebäude 裏を参照
- 6 Graubündner Kantonalbank 裏を参照
- 7 Ehemaliges Staatsgebäude
- 8 Reithalle (ehemalige Postremise)
- 9 Neues Gebäu 裏を参照
- 10 Altes Gebäu 裏を参照
- 11 Altes Kloster St. Nikolai
- 12 Rathaus Stadt Chur 裏を参照
(市内ガイドツアー出発点)
- 13 Geburtshaus Angelika Kauffmann
- 14 Hegisplatz
- 15 Malteserturm 裏を参照
- 16 Marsöl 裏を参照
- 17 Kirche St. Martin 裏を参照
- 18 Obertor 裏を参照
- 19 Bärenloch 裏を参照
- 20 Oberer Spaniöl 裏を参照
- 21 Kathedrale St. M. Himmelfahrt 裏を参照
- 22 Kirche St. Luzi
- 23 Kleiner Türligarten
- 24 Grosser Türligarten
- 25 Unterer Spaniöl 裏を参照
- 26 Fontanapark, Denkmal Benedikt Fontana
- 27 Denkmal Vazerol, Regierungsplatz
- 28 Römische Ausgrabungen, Welschdörfli
- 29 Bischöfliches Schloss und Hof
- 30 Torturm zum Bischöflichen Hof
- 31 Ausgrabungen Kirche St. Stephan
- 32 Schulhaus Quader
- 33 Kirche Heiligkreuz
- 34 Naturlehrpfad Fürstenwald; Friedhof
- 1 Bündner Naturmuseum*
- 2 Bündner Kunstmuseum 裏を参照*
- 3 Rätisches Museum 裏を参照*
- 4 Bahnhof SBB, RhB, PostAuto 裏を参照
- 5 Postplatz 裏を参照
- 6 Stadtgarten 裏を参照
- 7 Kornplatz 裏を参照
- 8 Kirchgasse 裏を参照
- 9 Arcas 裏を参照
- 10 Welschdörfli 裏を参照
- 11 RhB Chur-Arosa: 町の中の停留所 (町)
- 12 Busbahnhof «dr Bus vo Chur»
- 13 Luftseilbahn Brambrüesch
- 14 Stadthalle
- 15 Kinos Quader, Studio, Stadthof 16 Apollo
- 17 Schwimmbad Sand
- 18 Kantonsbibliothek, Staatsarchiv

* 美術館・博物館は月曜日休館



KUCHILADA
Obere Gasse 23



DIE SCHÖNSTEN UND SELTESTEN STEINE AUS
GRAUBÜNDEN UND DER GANZEN WELT
membrini
NATÜRLICH • EDEL • ECHT
Untere Gasse 26 • Tel. 081 252 70 20 • www.membrini.ch



VICTORINOX
Original «Swiss Army Knife»
Messer Leupi
Poststrasse 30
CH-7000 Chur
Tel. +41 (0)81 252 40 80
www.messer-leupi.ch



Rhätische Bahn
DIE KLEINE ROTE.
www.rhb.ch



MANOR
Bahnhofstrasse 32

2|ビュンドナー美術館
この贅沢なヴィラは1874_1876年にかけて建立された典型的なネオルネッサンス様式であるにも拘らず、入り口の階段はスフィンクスとビザンチン派およびボンベイ派の絵画で装飾されており、館全体がエキゾチックな雰囲気に彩られている。館の主なグラウビュンデン出身の綿紡績工場の創設者、ジャック・アンブロシウス・フォン・ブランタで、長くエジプトに在住した実業家。建築家ヨハネス・ルートヴィッヒはプラタ館を建てる際、そのことを意識した。この館は1919年より美術館として公開されている。(火曜~日曜10~12時、14~17時、木曜のみ20時迄)

ショッピングパラダイス
クールはチューリッヒとミラノの間で、人々を魅了せずにはおかないショッピングの街でもある。全ての物が揃う便利なデパートや、ショッピング心をそそる魅力的な500軒もの様々な店が軒を並べている。特に5月から10月迄の間はオーベレガッセにある週末の市場が、クールの街を活気づかせ、楽しい雰囲気を醸し出している。毎週土曜日は近郊農家から直送される新鮮な野菜や果物で溢れ返る。また、珍品収集家には毎月第一土曜にアルカス広場へ行くことを勧める。すなわち、そこでは親しみを込めて『ゲンゲリマルクト』と呼ばれる蚤の市が4月から12月の間開かれるのである。

6|グラウビュンドナー州銀行
一般的に現代的なデザインの銀行は無機質で明瞭な構造のものが多く、周囲との協調性にやや欠けている様に見える事がある。しかしグラウビュンドナー州銀行においては、それは当てはまらない：1909年から1911年にかけて建てられたこの建物は、いわゆるビュンドナー郷土様式を具現するアイコンとして、オットー・シェファーとマーティン・リッシュにより設計されたものである。郷土芸術のモチーフが細部にまで施されている。窓口の並んだホールでは地元クールの画家クリスティアン・コンラディンの壁画を鑑賞できる。

10|アルテスゲボイ
この市の宮殿は永遠の芸術作品である。1727年~1729年にこのバロックスタイルの建物は、総合的コンセプトによって建立された。政治家、ベーター・フォン・サールス=ソーリオは広大な庭を住居に作らせ、それが今日フォンタナ公園と呼ばれる部分である。建物の内部は精緻なディテールで彩られており、ある部屋は中国風、また他の部屋はクリスタルで統一されており、館内は貴重な装飾芸術で飾られている。

9|アルカス
アルカスは絵画的且つ中世的な姿を今日にまで残している。1971年迄はそばに建つ倉庫が景観の障害となっていたが、建築家のテオドール・ハウスマンはそれらを全て撤去し、地下に駐車場を作り、広場を全く新しくデザインした。ブレススール川側に立ち並ぶ家々は、城壁に沿って建てられ、25番地の家から見て取れるように、この家々は恐らく13世紀のものである。これらの家々のまるで絵に描いた様な美しさは、中世の家並みそのままの雰囲気と周囲の美しい緑との調和で一層強調されている。

20|オーベレ・シュバニオール
独立した一軒家というのはクール市内では珍しいものであるが、このオーベレ・シュバニオールは軒を並べた一般の家々とは異なり、クール最古の一軒家の住居として特筆すべき存在である。家の主はキャプテンカール・フォン・サリスとその妻ホルテンジア・グーゲルベルグ・フォン・モース。残念な事にこの2つの張り出し部を持つ家の建築家の名は判明していない。内部は1645年に造られた木組みの天井、1750年製造のタワー式オープンなどが見られる。家の南側の美しいテラス式庭園へ導くアーケードはこの邸の特徴を示すユニークな部分である。

文化の街
クールにはグラウビュンデン州の最も重要な美術館が三つある。ビュンドナーの歴史を紹介したレッティシェ美術館、アルベルト・ジャコメッティの作品を展示したクンスト美術館、動物や化石、鉱石などを多く集めた自然博物館がある。クール市立劇場では独自の演出による公演と並び、世界各国からの客演公演も多く上演されている。一方、『クリビューニ』と呼ばれる小劇場では小演劇を始め、地元の文化芸術活動が多く紹介されている。また様々なジャンルの音楽イベントも各地で楽しむことができる。
問い合わせ先：クール観光局、Grabenstrasse 5、電話+41 (0) 81 252 18 18

4|レグラ教会
1494年から1500年の間に建立され、地味な外観のこの後期ゴシック様式の建物の施工者は、フェルドキルヒ出身のバルタザール・ビルグリーである。中央通路とそれに続く奥部祭壇は石骨と蒲鉾状の屋根に覆われており、1504年には壁にキリストの磔の絵が描かれた。しかし教会の主な装飾は前世紀のもので、中でも注目すべきは1960年代後期にパーゼルの芸術家ハンス・シュテューダーの手により創作されたステンドグラスである。

6|市立庭園
1850年は散歩が時代の流行でもあった。クールもその例外では無く、町の公園がその格好の場所であった。1529年からここには墓地があり、1866年から1868年に掛けて今日見られるような公園に改造された。静けさと祈りを導くものに、二つの記念碑がある。一つは詩人のヨハン・ガウデンツ・フォン・サリス（1762~1834年）を奉ったものであり、もう一つは『2つの世界大戦の戦没兵士』の為のものである。

12|市庁舎
市庁舎を詳細に見て行くと、この政治が少し奇妙なものであった事が分かるかもしれない。例えば左右非対象の土台、不規則な造りの屋根、全ての構造が歪んでいるのが分かる。これは1464年の大火事の後、幾度となく手が加えられ、拡張されていたからである。1554年までは病院として使用されていた事もある。内部はこれら変則的な歴史を物語るものとして一見の価値がある。(市庁舎は市内ガイドツアーの出発点である。)

食の楽しみ
クールはスイスで最も古い町の一つであり、その独特な郷土料理でも知られている。「ローテリ」もその一つであり、このリキュールの大切な原料は、グラウビュンデン産の黒さくらんぼである。「ローテリ」は長年に渡り、人々に愛されてきた。またバインブルストと呼ばれるソーセージと並び、この2つの郷土料理の起源は不明である。バインブルストは口にする肉汁がしたる美味しさで、地元ならではの名物である。他にもカプンス、マルンス、ピツォッケリなどの名物郷土料理が並ぶ。街のレストランはこれらの郷土料理を得意とし、世界各国料理の店とあわせ食通向きのメニューを提供している。

マイエンセースへの遠足
クールの町の頂きにグラウビュンデン地方の方言で、アルプという意味のマイエンセースと呼ばれる場所がある。普段は静かなこのアルプスの草原に、春になると賑やかな声が響き渡る。マイエンセースファートと呼ばれるクールの学校の伝統的な遠足で、およそ3000人の子供達が朝7時に町に集合し、このマイエンセースを目指すのだ。山でバーベキューや遊びに興じる子供達の賑やかな声が聞こえるこの日だけは、下界のクールの町からは子供達の姿が消え、静かな一日となると言われている。そして翌日は学校は休校となる。

3|レーティッシュ博物館
かつての領土の館は今日美術館として公開されている。
レーティッシュ博物館はかつて、パウル・フォン・ポオル・ツ・シュトラス・ウンド・リートベルグの屋敷であった。その地所は1675年に、ある男爵により買収られ、かつての兵器庫があった場所にバロック様式の館が建設された。その後19世紀に館は文化史を記念する場所となったが、集められた芸術品が散逸するのを恐れた当時の政治家ベーター・コンラディン・フォン・ブランタや弁護士等により、それを留める目的として美術館として公開される運びとなった。(火曜~日曜10~12時、14~17時)

4|駅広場
クールの街に初めて列車が通るようになったのは1858年のことであった。詳しく述べるとクールの街境までだった。当時は旧市街とラインの間はほとんど未開拓の地であったからだ。しかしそれ以前からクールは北アルプスの峠を超える為の重要な交通の要の地でもあった。1994年からはアーチ型の大きなガラス屋根が鉄道と公共バス駅に建設された。それ以前の1878年に駅コンコースが出来、20世紀の始めには駅のビュッフェがそれに併設された。2007年迄にはクール駅はモダンな駅舎に生まれ変わる予定である。

クールでサーフィンとヨット？
クールには大きな湖での湖畔浴場、岸辺の散歩道、ウォータースポーツを除いて、実は全てのレジャーが揃っている。しかしこれらも変容を遂げようとしている。少なくとも「クール湖協会」は、ラインにほど近い平地のロスボーデンに大きな湖を作るプロジェクトを進めている。この大プロジェクトは環境とレクリエーションを統合したものであり、もしこの計画が現実となれば、10年内にサーフィンやヨットがクールで楽しめる日が来る事も夢ではない。キャンピングとスポーツセンター「オーベレアウ」はバス2番で駅広場から。(問い合わせ先：電話+41(0)81 254 42 88)

8|キルヒガッセ（教会小路）
マーチン教会の周りには、歴史上重要な意味を持つ家々が立ち並ぶ。マーチン広場には1574年に建てられた後期ゴシックスタイルで出窓のある張り出し部付き3階建てのハウスレイドが今でも建っている。続いて、同年、同様式で建造されたメンハルド、その先に更に古いアンティスティッティウムという家が並ぶ。そのそばには1580年の非常に重要な絵画が残されている家がある。そこには、ウサギが獐獅を捕らえているという、現実を逆転した奇妙な絵が描かれている。仕立て職人のツンフトハウスは1464年の大火事の後に修復され、現在は小劇場として使われている。

17|ザンクトマルティン広場
クールの中でも最も古い地域が町の上門と下門の間に位置している。それは歴史的に見て北と南とを繋ぐ中心地点として存在する事を意味する。後期ゴシックのこの広場は1464年の市の大火事の後に設けられた。広場にあるザンクトマルティン教会の三つのステンドグラスはアウグスト・ジャコメッティによって1919年に創られたもので注目すべきものである。1716年に造られたマルティンの噴水は幾つかの干支で装飾され、当時からの原型をほぼ完璧に留めている。

21|ビショッフリッシャー　ホッフとカテドラル
クールの司教館は町の上部に位置し、一つの小さな町を形成しているかの様である。皆が城壁の様に取り囲み、館の中心には後期ローマン様式のカテドラルが建っている。100年程の歳月をかけ1272年に完成されたものである。カテドラルの回りには司教館や司教の住居などがあり、その先端には町に向く様にして塔が聳えている。この塔の中には16世紀の後期ゴシック様式の酒場が残されている。ホーフのなかの最初の人間の住居跡は後期青銅器時代（BC1300~800年）のものが見つかっている。

2|レーティッシュ鉄道（RhB）管理行政館
「灰色の大きな外見に似合わぬ親しみやすさ。」
1907年から1910年にかけてサンモリッツの建築家ニコラウス・ハルトマンにより建てられたこの建物は、その様に描写できる。灰色ではっきりとした構成のファサードは荘厳な印象を与えるが、前庭を広くしたことによって、過大な感じは与えない。伝統的なスタイルを持ちつつ、それを進化させていく移行期の、いわゆるビュンドナー地方特有の建築様式である。堂々とし、且つ親しみ易さをもつこの建物は、この地方特有の建築様式を代表する重要なものの一つである。

5|ポスト広場
ポスト広場はクールの市の日々の重要な交通の要であり、二本の通りが交差している場所である。バーンホップ通りは旧市街に入りポスト通りと名前を変え、ショッピングを楽しむ為の散策に楽しい通りとなる。グラーベン通りは今日、旧市街の環状線となっており、これもまた歴史上の散策通りと言える。グラーベン通りは19世紀の典型的なブルバードとしての雰囲気を持った代表的な通りでもある。尚この通りではかつての旧市街を取り囲む外壁の跡を見る事も出来る。

緑の中のスポーツタウン
一般的にはコンクリートとアスファルトに覆われた街が多い中、クールは少なくとも町の半分以上の市内地が森で覆われており、ブランブリッシュ山やフリュステンの森で自然を満喫する事が出来る。ブランブリッシュにはケーブルカーで登る事が出来、クールの夏冬それぞれのリゾート地がおよそ2200メートルまで及ぶことになる。大自然の中でのハイキング、マウンテンバイク、キラキラ光る雪上でのスキー、スノーボード、またライン川岸にあるスポーツセンター「オーベレアウ」での水泳や日光浴などなど、クールでは全てのスポーツを楽しむ事が出来る。

やしの木と氷河が隣り合わせに
フリムス=ラクス=ファレーラ、レンツェルハイデ、ダボス、アローザ。
クールはこれらのよく知られたリゾート地に接しているだけではなく、ベルニナ特急の始発点にもなっている。この鉄道路線はクールから始まり剣山を超え、サンモリッツに到達し、風光明媚なベルニナ峠を下り、南スイスの暖かいプシュラーフにまで伸びている。この汽車の旅ではクールから乗車する事により、雄大な氷河を見つづついでのヤシの木も目にする事が出来る。またクールから氷河特急に乗り、オーベルアルプスを超えマッターホルンの町、ツェルマットにも行く事が出来る。グラウビュンデンはこれらの旅の出発地点でもある。

18|オーベルトール（上門）
マルタ騎士塔、センホッフ塔、そしてこの上門は中世の塔建造物として最も良い保存状態を維持している。上門はすぐにクールのシンボルの存在となった。4階建てのこの門は上部に行く程狭くなる形で、市の景観とうまくマッチしている。門の内側の絵画は20世紀のもので、クールの古い町の様子が描かれている。

25|ウンテレ・シュバニオール
この家は15世紀に後期ゴシック様式で建てられ、入り口の階段と面取りのされた囲い付きのドアは当時からのものである。およそ200年後の1654年に、当時のバロック式手法で家は改装、拡張された。内部は洗練され美しく飾られており、例えば1階の「サラ　テレーナ」と呼ばれる部屋、広い間取りの庭園に面した間や、2階のバロックスタイルの漆喰の天井がある部屋、また15世紀後半の木壁が見事に保存された後期ゴシック様式部屋などがある。

アローザ鉄道
クールの1000メートル以上もの高さに横たわる有名なリゾート地アローザは、正にこの1000メートルの高低差を楽しむ快適な鉄道の存在としても知られている。この鉄道は深い峡谷の合間を抜け、暗いトンネルをくぐり抜け、山の頂へと進んでいくなかでも特に忘れられない想い出となるものは100メートルにもおよぶ翼幅を持つラングヴィーザー・ヴィアドクトの陸橋を渡る時だろう。この陸橋は1914年に造られ、当時鉄筋コンクリートによる世界最大の陸橋の一つに数えられた。またこのRhB-アローザ線の特別な点は、クールの街の真ん中を走り抜けて行くことである。

5|郵便局
建築術を印象的に表現する方法は如何なるものであるのか：郵便局は奇妙に目立つ存在としてそこにある。建築家のジャン・ベグインとテオドール・ゴールの手によるクール最大のネオルネッサンス様式の郵便局の建物は1902年から1904年にかけて建てられた。他のスイスの郵便局に見られる類似性は偶然のものでは無く、建立当時いわゆる連邦ルネッサンス様式を国が強く押し進めていたからであった。重厚な造りのファサードと屋根の線を持つ豪華な建築は、ジュネーブ出身の芸術家ジェームス・ヴィベルトによるものである。

7|穀物広場
穀物広場は実はその呼称より古い時代のものである。17世紀迄僧院広場と呼ばれていたが、僧院が廃墟と化してから穀物倉庫となった。僧侶達が姿を消し名前も穀物広場と変わった。かつて厳重に管理された穀物商は1840年頃近代化され、それに伴い穀物倉庫もなくなったが、広場の名前だけがそのまま残った。前世紀迄広場は様々な市場として使われていたが、現在は旧市街と新市街を結ぶ要としての重要な場になっている。

15|マルタ騎士の塔
4階建てのこのマルタ騎士タワーは、なぜこの様な名が付けられたのかマルタ騎士との関連性を歴史的に説明する事は出来ない。それに対して、かつての名「火薬塔」の方はその由来がはっきりしている。すなわちこの塔はかつて火薬庫として使われていたのである。塔は13世紀前半に町の城壁の南西の隅柱として据えられたもので、現在でもこの塔は旧市街と新市街を分ける役割を果たしている。

10|ヴェルシュ村
ローマ時代のルーツを辿る宝庫に溢れる村であるが、現在はバーやキャバレーなどで賑わう場所でもある。ローマ時代にはこの辺りには住居や作業所、浴場などがあったと言われ、遺跡発掘調査では更に時代は遡り、初期石器時代（BC5000-1500）の太古の人々の存在が実証されたそうである。1986年以後、ローマ時代の遺跡は、ビュンドナー出身の建築家ベーター・ツムトール設計の建物によって保護され見学が可能である。(インフォメーション／見学申し込み　レーティッシュ美術館、電話+41(0)81 257 28 89)

伝説の街クール
クールとトリミの間にはヒュルステンの森が横たわっている。町から近いレクリエーションとしての場所でもあり、同時にまた神秘と伝説の場所でもある。深い森の中にはモンタリンへのスロープやスカレーラ盆地が横たわり、時におどろおどろしい音が響き渡る事がある。この不思議な音はかつてのクール市長、市参事員、市民たちが安らぎを求めて彷徨う、魂の叫びという伝説がある。暗い森の中には夜になると心の平安を得られず彷徨う幽霊が馬を連れ、川の水を飲ませる為にやって来、もしその様な幽霊に森の中で出会った時は、彼らの行く手を妨げず道を空ける様にしなければいけないと言い伝えられている。

3|州庁舎と市立劇場
政治と劇場は時として同じものとして捉えられているのではないかと考えることがある。しかし、ここクールではあくまでも二者が一つ屋根の下に存在したというだけであった。1861年から1863年に、ビュンドナー美術館の建設者、ヨハネス・ルートヴィッヒはかつての兵器庫を建設した。この建物は彼独自の建築学的形態を基本に、主要部分はネオルネッサンス様式に導かれたイタリア中世の半円アーチで覆われたものとなっている。1959年、建築家マーティン・リッシュはかつての兵器庫を市立劇場と州庁舎に改築した。

文学に見るクール
多くの作家達がクールに足を止めたが、その全てがクールをクールに入っ訳ではなかった。オーストリアの作家トーマス・ベンハードは「私の知る限りにおいて、最も冷たく暗い町だ」と記している。フリードリッヒ・デュレンマットもその推理小説『約束』の中で、クールを「石だらけの」そして「灰色の」町と記述している。しかし実はクールはスイス国内の平均気温としては、最高気温を誇る街なのである。スイスの作家であり文芸評論家のイソ・カマルチンは「自分自身の目を持って言うならば、クールの町ほど陽が溢れ暖かで愛すべき街はない」と讃えている。

9|ノイエスゲボイ
1751年から1752年に掛け建てられたアンドレアス・フォン・サールス=ソーリオ大佐の市宮殿は、気品をたたえながらも謙虚な姿が特徴である。灰色のファサードは地味ながらもリズムカに配置された窓により飾られている。内装は外見より華やかで、灰色の館と呼ばれるに相応しい美しい木の壁と漆喰により造られ、絢爛豪華なヴェニススタイルのシャンデリアがホールに輝いている。1807年にグラウビュンデン州がこの建物を購入し、今日では州議会としてその堂々とした雰囲気が脚光を浴びている。

16|マースオイル
かつてのクール司教座教会会員の厩舎跡地に、クール司教シュミード・フォン・グリュネックは1909年舞踏会ホールのあるホテルを建てさせた。建築家のバルタザール・デキュルティンスは、棟木の重層構造と切妻にアクセントを付けることにより、古くなおかつ時とともに変化していく外観を与えることに成功した。建築構造は、司教宮廷前という立地条件により、今日なお見事な出来映えを裏付けており、周囲の景観にうまく解け合ったものとなっている。

19|バーレンロッホ（熊の穴）
クールで最も神秘的な場所がこの「熊の穴」と呼ばれる場所である。旧市街の中でも最も保存状態が良く、アルカス広場とキルヒガッセの間にある。バーレンホッフとは実際には二つの中庭を指すのであるが、この名前の由来は分かっていない。古い歴史帳をひも解いてみると「クルシェラス」と記載されているが、これはラテン語で「小さな庭」という意味である。現在もその狭く小さな中庭は中世後期のクールの家々の雰囲気を余すところなく伝えている。

クール観光局とクール市はズートオストシュバイツ印刷（株）の寛大な援助に謝意を表する。
Südostschweiz
PRINT AG
刊行
コンセプト、テキスト、絵及び製作：
createamchurch、ノーベルト・リーディSGD、クール及びアーモン・フォンタナ、芸術文化歴史事務所、クール市クール観光局発注
印刷装丁：
ズートオストシュバイツ印刷（株）、クール
版權：クール観光局
© 2005年　ノーベルト・リーディ、アーモン・フォンタナ
graubünden